

< 今日の説教のポイント 出エジプト記 20 章 22～26 節 >

1 (22) 「契約の書」(24:3,7)とは? - 救いの神様が下さった書。

出エジプト記 20 章 22 節には珍しく「契約の書」という大見出しが付けられています。これは、ここから 23 章の終わりまで記され、神様に「守ります」とイスラエルの民が誓った文書(24:3,7)のことを指しています。これを今の私たちが読むに際して一番大事なことは、その出だし(20:22)で、「十戒」を告げられた時(20:1-2)と同じように、「私はあなたたちをエジプトから救い出した神でしょ。だから私があなたに言うことを聞きなさい。あなたたちを命の道に導くことなのですから」と言われていることです。ここに、聖書を通して知らされる、恵みに満ちた真の神様を覚えて生きる民が生まれたのです。この神様がイエス・キリストをお与え下さったことが新約聖書に告げられているのであり、私たちもそれを知らされて、この神様の民に加わる思いが与えられるのです。恵みの神の壮大な救済史、それが聖書なのです!

2 (23) 「～してはならない」 - 1の内容を知ると恵みが見えて来る。

これは 20 章 3-7 節と同じですね。つまり、「わたしは主、あなたの神、あなたをエジプトの国、奴隷の家から導き出した神である」(2)、と言われた神様の言葉なので、言われた人々は、「それはそうだ。そんなことはもうしようとは思わない。だって、もうこの神様を知っているのだから」と思ったのです(24:3,7)。

3 (24) この神様に向かうようにして下さったことが最初の命令。

最初の命令は祭壇についてのことでした。これは、「神様に向かう時、向かう間を大事にしなさい。それがなされている時に、あなたはどこにいても、何があっても、私が共にいるということを感じられるのだから」と教えて下さっているのです。これは十戒の第4戒、「安息日を聖別しなさい」(20:8-11)、と同じですね。私たちを造り、生かして下さっている神様を第一に置く! 信仰者の最も大切な基本事項です。

4 (25-26) 自分で「よかれ」と思うこと - 神様を軽んじていないか?

ここはどれも神様を軽んじることに関係しています。「これくらいいいだろう」「これは神様のためを思ってやるのだ」、そのように自分の思いを神様の上に置いて神様を軽んじる罪です。信仰者となっても犯す罪ですから、「注意しなさい」と教えて下さっているのです。感謝。